



## 未来を夢見て Season 2

2021/1/12 No. 120

子どもにとって魅力ある学校づくりに向けて  
～数見隆生先生をお迎えして～

1月12日（水）、朝から降り続いた雪も昼には止んで、子供たちにとっては待望の「遊び時間」となりました。業間は校庭で遊べなかつただけに、校庭から聞こえる子供たちの歓声はいつも増して大きく聞こえました。そんな子供たちを犬飼先生はじめ支援員の先生方が休み時間も見守ってくださっています。学校には支援員の先生方をはじめ様々なお仕事をしてくださる皆さんがいて、それでこそ成り立っていること今更ながらありがたく思います。



11日（火）数見隆生先生（宮城教育大学名誉教授）をお迎えして校内研修を行いました。数見先生は先生方に伝えたいことがたくさんあって、本当はもっと時間をかけたかったところでしたが、90分という時間設定で数見先生にご迷惑を掛けたような気持ちになりました。ただ、数見先生ご自身も最後まで先生方が熱心に耳を傾けてくださったこと、大変嬉しく思われていたのでその点はよかったですと思いました。



さて、講話の中で直接テーマとは関わりありませんが、コロナのこと、数見先生ご自身のこと、宮教大でのこと、附属小でのことなどについてもお話してくださいました。特にコロナのことはここ2年のことなので、いかに先生ご自身が今でも研究熱心であるかがわかります。また最後は非認知的能力と認知的能力の見直しと「魅力ある学校づくり」につながっていきましたが、子供たちにとって魅力ある学校とはどんな学校か、自分自身問い直してみたいと思いました。

ところで、冒頭「遊び時間」という言葉を使いましたが、ここも昨日のお話の中で触れられていたことでした。学校では「業間」「昼休み」という言葉が一般的ですが、子供たちにとっては「遊び時間」と言っただけの方がよいのかも知れません。今日も校庭で遊んでいる子供たちの様子を眺めていましたが、寒さも忘れて走り回ったり、追いかけたり本当に生き生きと活動する姿が見られました。コロナ禍で、今後も活動に制限がある中で、我慢ばかりではやっぱり子供たちが可愛そう……。来週から教育課程全体会がスタートしますが、数見先生からいただいた宿題「子どもたちにとって魅力ある学校」ということをキーワードに、令和4年度の教育課程を編成していきたいと願っています。

（文責：手代木）